

公益社団法人日本地球惑星科学連合
平成 26 年度第 8 回理事会議事録

1. 開催日時 平成 27 年 2 月 19 日 (木)
午前 9 時 30 分から午後 13 時 00 分
2. 開催場所 東京大学理学部 1 号館 7 階 710 号室
(東京都文区本郷 7-3-1)
3. 出席者 理事数 20 名
出席理事 15 名 (定足数 11 名 会議成立)
オブザーバー 5 名
4. 議長 理事 津田 敏隆
5. 出席役員
理事 津田 敏隆
理事 川幡 穂高
理事 木村 学
理事 ウォリス サイモン
理事 奥村 晃史
理事 北 和之
理事 高橋 幸弘
理事 瀧上 豊
理事 成瀬 元 (Skype 出席)
理事 西 弘嗣
理事 浜野 洋三
理事 原田 尚美
理事 日比谷 紀之
理事 道林 克禎
理事 村山 泰啓
監事 北里 洋
監事 鈴木 善和
監事 松浦 充宏
6. 出席オブザーバー

宇宙惑星科学セクションプレジデント 佐々木 晶
大気水圏科学セクションプレジデント 中島 映至
固体地球科学セクションプレジデント 大谷 栄治
地球人間圏セクションバイスプレジデント 春山 成子
プログラム委員長 鈴木 庸平

午前9時00分、理事の定数に足る出席があったので、会長津田敏隆は議長席に着き、理事会が成立することを宣言した。インターネット電話 **skype** を利用し、東京大学理学部1号館と京都大学とで同時に会議に参加できるようにし、審議を確実に行うことができることを互いに確認した。

7. 報告事項

(1) 委員会・セクション活動報告

(1-1) 成瀬 元理事 職務報告 総務委員会活動報告 資料P.1

本年度の協賛等について報告があった。前回理事会以降、協賛を許諾したものが5件、後援を承諾したものが1件ある。

(1-2) 川幡 穂高理事 職務報告 ジャーナル編集委員会活動報告 資料P.2-4

ジャーナルの状況に関して報告があった。出版論文数が年内目標の25論文(Editorial除く)に到達した。AGU Fall Meetingにてブースを出展し、連合全体、PEPS、関連学協会および日本における国際学会やプロジェクト、留学生受け入れ状況について情報を発信した。2015年度ジャーナル関連特別シンポジウム、連合大会特別国際セッションの募集を行った。

1月22日に第6回編集長会議を開催した。

(1-3) 浜野 洋三理事 職務報告 大会運営委員会活動報告 資料P.5-12

2015年の大会準備状況について報告があった。前日18日に、投稿を締め切った。今後は編成作業へ移る。また2015年大会では千葉市・千葉県教育委員会、千葉市教育委員会の協力により、中学生アウトリーチ企画を準備している。

2016年大会の会場は、幕張メッセ国際展示場に加え、展示ホールとする。2017年大会も同様に幕張メッセ国際展示場と展示ホールでの開催を予定しているが、引き続き検討する。

(1-4) 原田 尚美理事 職務報告 男女共同参画委員会活動報告 資料P.13

男女共同参画委員会の活動について報告があった。男女共同参画学協会連絡会の活動について、報告があった。第12回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム(2014年10月東大開催)の報告書がHPに掲載された。2014年11月より新体制が発足した。第13期第

1 回運営委員会に原田委員長と小口副委員長が参加した。

(1-5) 木村理事 職務報告 グローバル戦略委員会活動報告 資料 P.14-19

1月20日に第5回委員会を開催した。2015年大会での25周年記念シンポジウムの準備を進めている。

大会期間中に行う International Mixture Luncheon を企画し、準備を進めている。既に参加者の募集を始めた。

(1-6) 成瀬 元理事 職務報告 顕彰委員会活動報告 資料 P. 20-23

顕彰委員会ならびに顕彰関連の活動について報告があった。1月13日に第1回フェロー審査委員会を開催した。フェロー審査の過程において審査委員会からフェロー制度規則の再検討についての要望があり、とりまとめた。現在顕彰委員会にて検討中である。引き続き検討するが、公益事業としてふさわしい事業であることを前提として検討する。

(1-7) 固体地球科学セクション報告 (大谷プレジデント) P. 24

固体地球科学セクションの平成27年度の活動予定について報告があった。顕彰活動や内部フォーカスグループなどについて活発な活動を予定している。

(2) 日本学術会議の新たな展望を考える有識者会議ヒアリングへの参加報告 (木村副会長)
資料 P. 25

内閣府「日本学術会議の展望に関する検討室」の依頼により、1月22日に「日本学術会議の新たな展望を考える有識者会議」(座長：尾池和夫(京都造形芸術大学学長))に木村副会長が出席した。質問に答申し、連合発足の経緯や今後のあり方、学術会議と連合の関係について発言した。

(3) 西田会員との覚書について (津田会長) 資料 P. 26

10月31日西田篤弘会員と寄付金について覚書を交わした。平成26年度から10年間に亘り毎年金500万円ずつ、総額金5,000万円の寄附を受け取る。

(4) その他 村山 泰啓理事 職務報告 情報システム委員会活動報告

その場で村山理事より追加報告の提案があり、全会一致でこれを承認した。

3月4日に日本学術会議主催学術フォーラム「科学を変えるデータジャーナラー科学技術データの共有・再利用の新たなプラットフォーム構築へむけてー」が開催される。

8. 審議事項

第 1 号議案 会員（正会員）入会承認の件（成瀬 元理事）資料 P.27-29

定款第 8 条 2 項の会員の入会の定めに従い、新規入会者の入会を承認した。

第 2 号議案 委員会委員承認の件（成瀬 元理事）資料 P. 30

広報普及委員会委員として生形貴男会員，グローバル戦略委員会として，田島文子会員の計 2 名を，それぞれ承認した。

第 3 号議案 国内・外国出張旅費規則改正について（成瀬 元理事）資料 P. 31-34

国内出張旅費規則ならびに外国出張旅費規則について，それぞれ私事旅行を含む出張についての規則および出張中の移動時間の勤務についての規則を加えることを審議した。これを承認した。

第 4 号議案 国内・外国出張旅費規則に関する内規の設置について（成瀬 元理事）資料 P.35-36

国内出張旅費に関する内規ならびに外国出張旅費に関する内規の設置を審議し，これを承認した。

第 5 号議案 日本学術会議・東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会入会の件（高橋 幸弘理事）資料 P.37

日本学術会議・東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会に連合が入会することを審議し，これを承認した。

第 6 号議案 平成 26 年度事業報告書・決算報告書について（成瀬 元理事 北 和之理事）資料別添

平成 26 年度事業報告書ならびに決算報告書について，検討中の案を確認した。現在の案を踏まえて，提出まで総務委員会ならびに財務委員会を中心に検討することとなった。

第 7 号議案 平成 27 年度事業計画書・予算書について（成瀬 元理事 北 和之理事）資料別添

平成 27 年度事業計画書ならびに予算書について，検討中の案について審議した。これを承認した。今後必要となる調整に関しては総務委員会ならびに財務委員会に一任した。

第 8 号議案 第 10 回国際地学オリンピックへの支援について（瀧上 豊理事）

250 万円を上限として，27 年度予算にて支援することとした。第 7 号議案にて提出された平成 27 年度予算書には参入済みである。

第9号議案 国際学会への展示出展について (川幡 穂高理事) 資料 P.40-47

2015年のAGU Fall Meetingでの連合のブース出展について議論した。2014年と同規模の4ブースにて出展することとした。JSPS、その他の機関にも連合ブース出展に協力要請をするなど、さらにブースを充実させることを検討することとした。

第10号議案 大会におけるAGU会員の取り扱いについて (再審議) (浜野 洋三理事)
資料 P.48

平成26年度第7回理事会での第7号議案にて、事実誤認に基づく審議が行われたため、再審議を行った。

当該議案では、「連合とAGUとはMOUを結んでおり、連合の会員はAGUの大会に会員価格で参加できたAGUの会員も連合大会に会員価格で参加できる。しかし現状、AGUの会員は連合会員でなくても、連合大会で発表する際に会員価格が適用されるのに対し、連合の会員がAGUの大会で発表する際には、AGU会員で無い場合は、非会員価格となる。これを是正し、AGUの会員が連合大会で発表(筆頭著者もしくは筆頭セッションコンビナー)する際に、会員価格を適用するためには、連合会員である必要がある、という運用とすることを審議し、承認した。」となっている。

しかし実際には、連合は大会での投稿には会員価格を設定していない。したがって、この決議を取り下げることとする。

AGUと連合の不均衡を是正するためには、正しくはAGUの会員が連合大会で発表する際に連合会員であることを要請することとなる。しかし、連合では非会員でも情報を登録することにより、大会会員として投稿発表ができるのが現状である。

以上の現状を踏まえた上で再審議を行った。その結果、現状のまま、連合の会員でないAGU会員も投稿発表が可能であり、連合の会員でなくAGUの会員でもない者(大会会員)も投稿発表が可能である状態を維持することとなった。

第11号議案 事務局の体制について (津田会長)

谷上事務局長の退職に伴い、浜野洋三理事を事務局長代行として雇用することを審議した。これを承認した。

浜野理事から事務局として、役員に以下の要請があった。1.役員等同士の連絡は必要のある場合を除いて事務局を介さず直接やりとりして欲しい。2.事務局からの依頼等のメールに対し、そのメールを受領した旨返事が欲しい。3.事務局が行動を起こせるような指示の仕方が望ましい。

また、5月の連合大会以降の長期的な体制についても議論が必要であるという意見があった。これに対し会長が今後検討してゆくと答申した。

平成26年2月19日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第8回理事会

出席理事	津田	敏隆	印
出席理事	川幡	穂高	印
出席理事	木村	学	印
出席理事	ウォリス	サイモン	印
出席理事	奥村	晃史	印
出席理事	北	和之	印
出席理事	高橋	幸弘	印
出席理事	瀧上	豊	印
出席理事	成瀬	元	印
出席理事	西	弘嗣	印
出席理事	浜野	洋三	印
出席理事	原田	尚美	印
出席理事	日比谷	紀之	印
出席理事	道林	克禎	印
出席理事	村山	泰啓	印